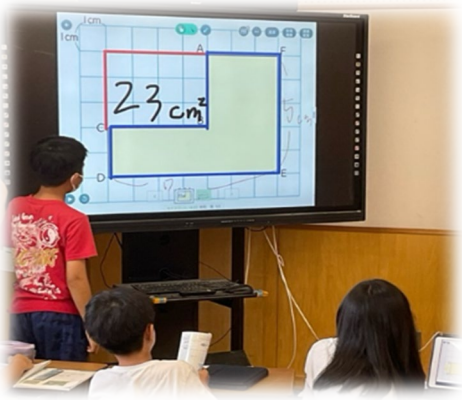
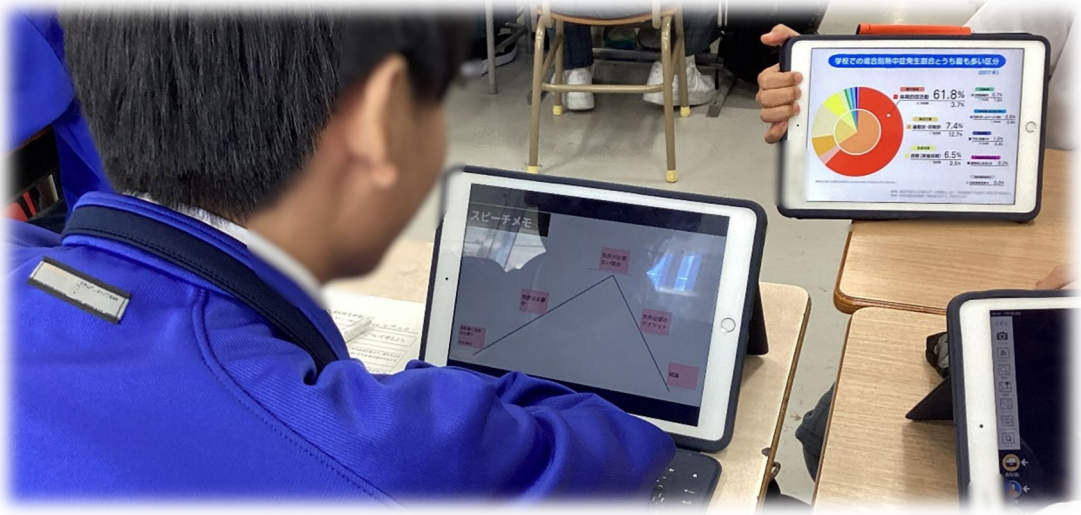
令和６年度　浦添市
ICT エバンジェリスト実践事例集





浦添市立教育研究所

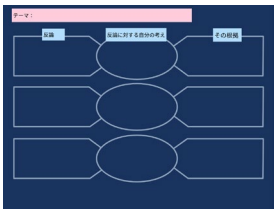
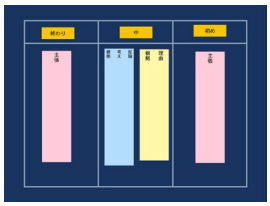
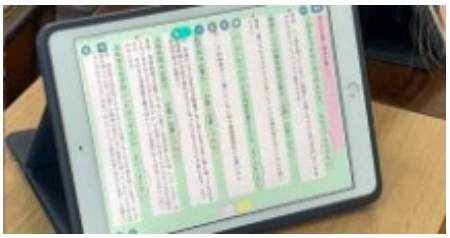
令和６年度　浦添市ICTエバンジェリスト

	氏名	所属	概要	ページ
1	照喜納　ゆかり	浦添小学校	外国語	ｐ２
2	三好　もも	仲西小学校	国語	ｐ３
3	宮城　緋奈子	神森小学校	体育	ｐ４
4	富永　有里菜	浦城小学校	道徳	ｐ５
5	廣松　朋典	牧港小学校	体育	ｐ６
6	知念　祐志郎	当山小学校	算数	ｐ７
7	高江洲　光	内間小学校	算数	ｐ８
8	上江洲　航琉	港川小学校	算数	ｐ９
9	金城　正人	宮城小学校	外国語	ｐ１０
10	香西　美紀子	宮城小学校	道徳	ｐ１１
11	與那城　美南海	沢岻小学校	国語	ｐ１２
12	宮平　安彦	前田小学校	算数	ｐ１３
13	與那嶺　高道	前田小学校	体育	ｐ１４
14	髙岡　信雄	浦添中学校	道徳	ｐ１５
15	普久原　朝英	仲西中学校	英語	ｐ１６
16	松本　誉	神森中学校	国語	ｐ１７
17	大城　司	港川中学校	社会	ｐ１８
18	山里　昌平	浦西中学校	国語	ｐ１９
19	森平　信義	浦西中学校	理科	ｐ２０

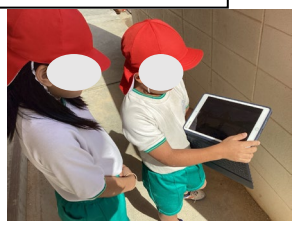
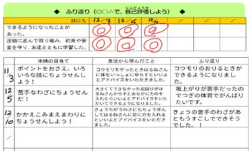
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添小学校	授　業　者	照喜納ゆかり
対 象 学 年	５年	教　科　等	外国語科
単　元　名	「Unit5　This is my sister.（身近な人の紹介）」		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）　☑AppleTV □実物投影機　☑デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	「単元のゴールを知り，自分との関係や特徴を表す表現を聞こう。」		
ＩＣＴ機器の活用場面	・電子教科書を活用し，ジングルやチャンツで単語や表現の練習を行う。 ・ロイロノートを使用し，めあてに沿って「マイゴール」を立てたり，授業の最後に「ふり返り」を行う。		
指導の流れ	① Greetings　「4questions」を行う。 ② Small Talk　AET の Small Talk を聞いて単元のゴールの見通しをもたせる。 ③ Quiz time　ロイロノートを活用して「どんな関係？」クイズに答える。 ④ Today's goal　「単元のゴールを知り，自分との関係や特徴を表す表現を聞こう。」 今日のゴールを知り，マイゴールのめあてを立てる。 ⑤ Introduction　P56-57 の写真を見てどの写真のことを言っているのか推測し，番号を記入する。 ⑥ Jingle　関係や人の特徴を表す語句を聞いて言ってみる。 ⑦ Chant　自分との関係やその人の特徴を紹介する表現を練習する。 ⑧ Activity　単語クイズに答える。 ⑨ 振り返りを行う。今日の学習でできたこと，気付いたこと等をロイロノートを活用し，振り返りを行う。 単語や表現を聞いて発音の練習♪ 単語クイズに挑戦！ 今日の学習のふり返り☆		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・単語クイズに答える際にイヤホンを活用するよう指示する。 ・iPad をスムーズに操作できているか机間指導を行う。 ・「聞くこと イ ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取ることができるようにする。」		

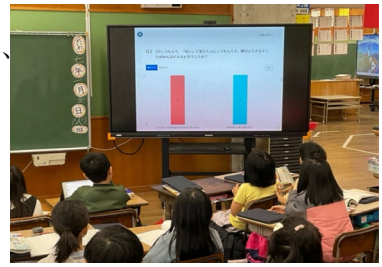
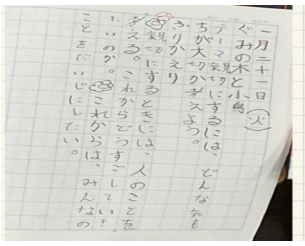
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	仲西小学校	授　業　者	三好　もも
対 象 学 年	５年	教　科　等	国語
単　元　名	あなたは、どう考える		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（ロイロノート、カフート、Web 原稿）　☑AppleTV □実物投影機　☑デジタル教科書 ☑デジタルコンテンツ（　カフート　）　□その他（　　）		
本時のめあて	予想される反論について、自分の考えを書こう。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・カフートで漢字クイズ ・デジタル教科書を電子黒板で提示 ・電子黒板でやり方の説明 ・ロイロノートのシンキングツールを用いて、思考の整理 ・Web 原稿に下書き		
指導の流れ	１．<u>*漢字練習*</u> →Kahoot！でクイズ形式で行う。 ２．<u>*めあての確認*</u>「予想される反論について、自分の考えを書こう。」 ３．<u>*授業内容の確認*</u> →電子黒板での説明 ４．<u>*自分の考えをまとめる*</u> →インターネットを用いて情報収集 ロイロノートのシンキングツール（キャンディチャート、PMI） 前時までの提出箱で周りの意見を確認する    *５．<u>Web 原稿に下書きを行う</u>* →書くことへの抵抗を減らす スクリーンショットをして提出させる。 *６．<u>振り返り</u>* →ロイロノートのテキストカードに書いて提出させる		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	○常に使わないときはどうするか、教師が話し始めたら手を止めるなど規律を徹底する。 ○根拠をデータやアンケートなど信憑性の高いものを用いて書かせる。 ○Kahoot!は、児童の興味を惹くことができるが、接続に時間がかかる。		

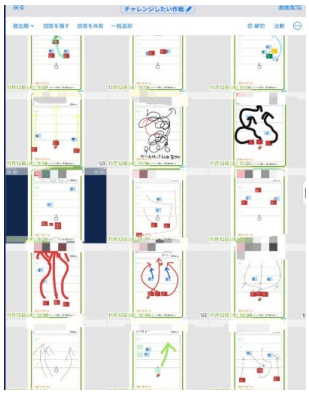
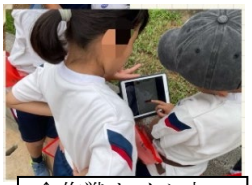
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	神森小学校	授　業　者	宮城緋奈子
対 象 学 年	３学年	教　科　等	体育
単　元　名	鉄棒運動		
ＩＣＴ環境	□電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）　□AppleTV □実物投影機　□デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	自己の能力に適した支持系の基本技を工夫して練習し、技の出来栄えを高めることができる。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・展開時において、鉄棒運動における自分の動きを客観視するために、ICT 等を活用して実際の動きを確認できるような工夫をする。上手くできているところ、できる為に意識するポイント等を動画で撮り合いグループやペアで教え合い、自分が頑張るポイントがわかるようにする。 ・ロイロノートの資料箱を活用し、鉄棒運動のポイントを確認できるようにする。		
指導の流れ	１導入 ・準備運動・感覚つくり（主運動につながる運動） ・運動の習得に繋がる動きを取り入れた準備運動を行う。 ・めあての確認 ポイントをおさえて、鉄棒のいろいろな技にちょうせんしよう！ ※自分がちょうせんしたい基本技を確認する。 ２展開 ・ファーストテイク：活動①　（動きを撮影し、課題を確認する。） タブレットで技のポイントを確認し、安全に留意してペアで運動に取り組む。 ・チャレンジタイム：活動②（ペアで技のビデオ撮影） 自分の動きを客観視するために、ICT 等を活用して実際の動きを確認できるような工夫をする。上手くできているところ、できるために意識するポイント等を動画を撮り合いグループやペアで伝えあい、自分が頑張るポイントがわかる。 ３まとめ ・学習の振り返りカード（ロイロノートで提出） ※めあてと正対させる。 できたことや工夫したところ、次時に頑張りたいところ、友達にどのようなアドバイスをしたかなどを発表し合う。  図１　技のポイント確認 図２　児童同士で動画を撮る  図３　ロイロノートでのふりかえり提出		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・本時は学習指導要領解説体育編では（２）思考力、判断力、表現力等の「自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。」をねらいとしている。 〇技のできばえを視覚的に振り返って、自己の能力に適した課題を見付ける。 （ICT の活用）		

R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立浦城小学校	授　業　者	富永　有里菜
対 象 学 年	2 学年	教　科　等	道徳
単　元　名	「ぐみの木と小鳥」（親切・思いやり）		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）　☑AppleTV □実物投影機　□デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	困っている人を思いやり、相手のことを考えることの大切さを登場人物の行動から気付き、進んで親切にしようとする心情を育てる。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・導入の際、前回行ったアンケートの結果を電子黒板で確認する。 ・展開の場面において、自分事として考えられるようにロイロノートを活用し、自分の立場を明らかにさせる。		
指導の流れ	【導入】 1.　ロイロノートでアンケートを取った結果を見せ、学習の見通しをもたせる。  【展開】 2. 教材を範読する。 3. 登場人物の関係性を確認後、主人公の気持ちについて考えさせる。 4. 中心発問を行い登場人物の気持ちを考えさせたあと、もし自分が同じような立場になったとき、どのような行動を取るのかロイロノートのカードを活用して意思表示させる。 ●もし自分が小鳥と同じような立場で嵐の中でも病気になっているりすにぐみの実を渡しに行きますか？ 【行く】・・・ピンクのカード 【行かない・まよう】・・・水色のカード 【終末】 5.振り返り 本教材で考えたことや今後どのように過ごしていきたいのか  		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	○これまでの経験（これまでに親切にされて嬉しかったことは何？）を活かしたうえで授業を行うと自分ごととして考える児童が多かったのではないか。 ○児童の心情の変化を見取るためにも、展開の前半・後半２回行うことで、なぜ変化したのか考えも聞くことができ、評価をするうえでも活用することができるのではないか。		

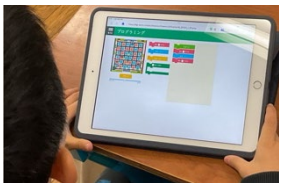
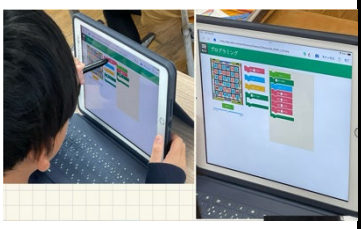
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立　牧港小学校	授　業　者	廣松　朋典
対 象 学 年	第４学年	教　科　等	体育科
単　元　名	つないで，かわしてタッチダウン！（フラッグフットボール）		
ＩＣＴ環境	□電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）　□AppleTV □実物投影機　□デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	【めあて】作戦を生かして、たくさん得点しよう。 【ねらい】①味方にボールを手渡したり、パスを出したりすることができる。 ②ゲーム型に応じた簡単な作戦を選ぶことができる。		
ＩＣＴ機器の活用場面	①　作戦タイムにおいて、作戦ボードとしての活用。 ②　振り返りカード・アンケートとしての活用 ③　（単元を通して）お手本となるプレイ動画や、ルールなどの共通確認事項をいつでも活用・共有できる情報源としての活用		
指導の流れ	1　準備運動 ①チームストレッチ ②ボール渡しリレー ③パスゲーム ④しっぽとりゲーム ・しっかりと準備運動をさせる。 ・試合で使う場面を意識して練習させる。 2　学習内容の確認 めあて：作戦を生かして、たくさん得点しよう。 3　試合① ・ゲーム中は，作戦を選ぶ時間であることを確認する。 ・作戦ボードを活用しながら一人ひとりの役割を確認させる。 ・巡回しながら、フェイクの動きを積極的に試すように声をかける。 4　試合② ・作戦タイムの時間を確保する。 ・試合①の反省を生かすように声をかける。 【「努力を要する」状況と判断される児童への支援】 →作戦タイム時に役割と行動を確認させる。 →ICT 機器を活用し，視覚的に動きを確認させる。 5　振り返り ・チームごとに振り返りを行い、振り返りカードに記入する。 ・ゲームの感想や友達のよかったところを発表する。	 ↑事前に作戦カードを提出（ロイロノート）  ↑作戦タイム中。タブレットを見ながら作戦を共有する姿が見られた。	
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	○ロイロノートを活用することで、児童が必要に応じてデータにアクセスすることができた。具体的には、①作戦カード、②ルール、③作戦例、④動きのポイントなどをいつでも共有できるようにした。 ○作戦カードにおいて、ICT 機器を活用したことで、タブレットの「画面録画機能」を使用して、プレイヤーの動きを動画で確認することができた。 ○授業で使用する前に、タブレットを使う目的や注意事項を確認しておくことで、有効にしようとすることができた。		

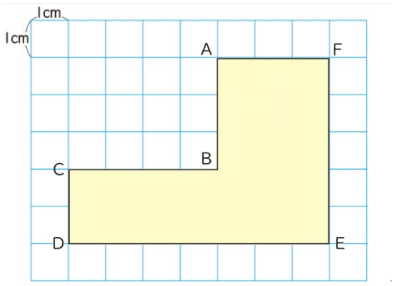
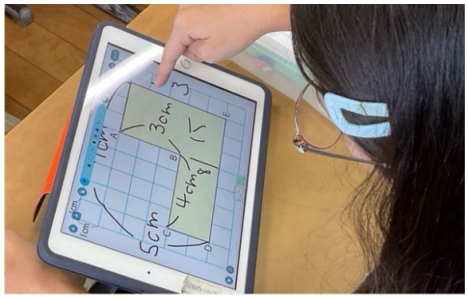
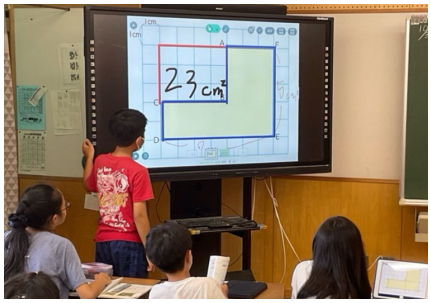
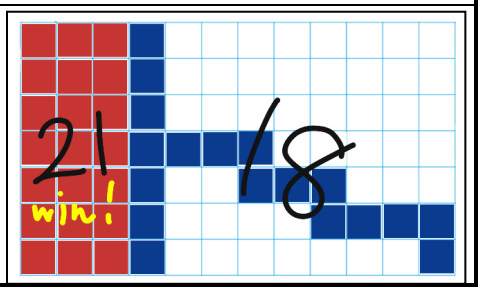
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	当山小学校	授　業　者	知念祐志郎
対 象 学 年	４学年	教　科　等	算数
単　元　名	「面積」		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（ロイロノート）　☐AppleTV ☐実物投影機　☐デジタル教科書 ☐デジタルコンテンツ（　　）　☐その他（　　）		
本時のめあて	新聞紙で作った１㎡の正方形をもとに「そのいくつ分」で大体の面積を測定することを通して、①１㎡の量感を養うとともに、面積の単位が大きくなった時も、②その単位のいくつ分で測定することができることに気づく。		
ＩＣＴ機器の活用場面	展開時において、各自で測定した面積を共有する際にロイロノートを用いる。ロイロノートに提出することにより、自分以外の他者が測定した面積に多く触れることができ、それが１㎡の量感を養うことに寄与すると考える。		
指導の流れ	１　導入 ①　問題の提示 「新聞紙で面積が１㎡の正方形をつくり、広さについて調べてみましょう。」 ②　【既習をもとに考える数学的な考え方を働かせる発問】 『前の時間までと、違うところはどこかな？』 →既習と未習の違いを明確にして、本時の課題を焦点化する。 →今までは計算によって面積を求めてきたが、今回は実測するところが違う。 ③めあて：「１㎡を実際につくって、それをもとに身の回りの面積を測ろう！」 ２　展開 ①　一人一人の「学習適正（ここでは特に興味・関心、学習速度）」に応じた個別最適な学び ・測りたい対象を選ぶ。 ・作った新聞紙をもとに、「１㎡が何個分」で実測する。 ・「ロイロノート」に、測定箇所とその面積を提出する。 ②　多様な情報に触れ、㎡の量感をさらに養う対話的な学び ・提出された他者の測定箇所及び面積を参照する。 ３　ふり返りまとめる ①　【既習と未習をつなぐ統合的な考え方を働かせる発問】 『今までの学習とつながっていると感じたところは？』 →「～の何個分」で考えるという単位の見方に気づかせる。（評価）		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・「基にする大きさのいくつ分」という単位の見方を足場に、図形の構成要素としての辺に着目して、単位正方形のいくつ分を、計算によって求める方法を考えることを大切にする。 ・本時は学習指導要領解説算数編 B 図形領域⑷平面図形の面積の特に「知識・技能」「面積の単位について知ること。」をねらいとしている。		

R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立内間小学校	授　業　者	高江洲　光
対 象 学 年	小学校 3 年	教　科　等	算数科
単　元　名	わくわくプログラミング		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）　☑AppleTV □実物投影機　☑デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	プログラミングを作る活動を通して、基本的なプログラミングの考え方を理解し、積極的にプログラミングする姿を育む。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・プログラミングの基本的な方法についての共有(Ipad、電子黒板) ・プログラミング作り（iPad） ・作成したプログラムの全体共有（iPad、電子黒板）		
指導の流れ	・ 1、問題把握 「命令を組み合わせてレーシングカーを動かすプログラミングを作ってみよう。」  2、めあての確認「できるだけ短いプログラムで目的を達成する方法を考えよう。」 3、プログラミングの方法やきまりの全体共有（ロイロノートでの画面共有） 4、目的を達成するためのプログラミング作り（各自）  5、全体共有（ロイロノート、提出箱にて全体共有） 6、ふり返り		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・学習内容として、個人での作業が多いので、意図的なペア、グループなどの共有の場の設定が必要。 ・プログラミング学習について、ICT 機器以外でのプログラミング学習について伝え、生活の中でのプログラミングについて触れ、生活と繋げるように指導する。		

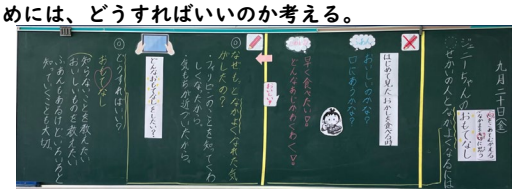
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	港川小学校	授　業　者	上江洲　航琉
対 象 学 年	４年	教　科　等	算数
単　元　名	面積		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑ iPad（　　）　☐AppleTV ☐実物投影機　☑デジタル教科書 ☐デジタルコンテンツ（　　）　☐その他（　　）		
本時のめあて	図形を分けたり、付け足したりすれば、長方形や正方形の面積の公式を使って求めることができる。		
ＩＣＴ機器の活用場面	ロイロノートを活用して図形に線を引く等して面積の求め方を考える。		
指導の流れ	１．問題を提示。前時までとの違いを出して、「これまで学習した形にして考えることはできないか」と見通しを持つ。 ２．ロイロノートを活用して図形に線を引く等して面積の求め方を考える。 〇つまずく児童への手立て 単位正方形の数を数える方法を一緒に行い、計算で求められないか、と長方形に着目させる。  ３．それぞれの回答を発表する 発表の際は、「長方形だから」「正方形ができるから」公式が使えるという説明ができるように問い返しをする。 ４．まとめ 「図形を分けたり、付け足したりすれば、長方形や正方形の面積の公式を使って求めることができる。」 ５．練習問題 前半で行ったように図形を分割あるいは補完して面積を求める問題に取りくむ。   		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	第１時、面積の導入で実施した「算数スプラトゥーン」で得られた、「単位となる正方形がいくつあるか」という面積の定義をはじめに確認した。  		

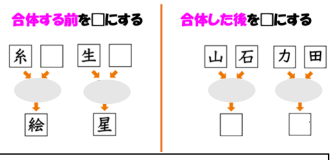
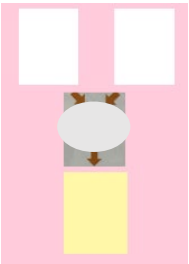
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	宮城小学校	授　業　者	金城　正人
対 象 学 年	５年	教　科　等	外国語
単　元　名	Unit5 This is my sister		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　　）　☐AppleTV ☐実物投影機　☑デジタル教科書 ☐デジタルコンテンツ（　　）　☐その他（　　）		
本時のめあて	自分との関係や特徴を表す語句を知ろう		
ＩＣＴ機器の活用場面	Introduction　電子黒板 Watch the Scene　デジタル教科書 Jingle　iPad、デジタル教科書 Chant　iPad、デジタル教科書		
指導の流れ	①　あいさつ　「日付、曜日、天気、時間」 ②　Introduction　家族の紹介を写真から考える。 ③　Watch the Scene　映像からどんな場面でどんなことを話しているか想像させる。 ④　Unit Goal 自分の好きな人物を紹介することができるようになろう。 ⑤　Today's Goal　自分との関係や特徴を表す語句を知る。 ⑥　Words and Phrases　関係や人の特徴を表す語句を知る。 ⑦ Jingle　関係や人の特徴を表す語句を練習する。 【個別学習、タブレットの活用】 ⑧ Chant　他者について、自分との関係やその人の特徴を紹介する表現を練習する。 【個別学習、タブレットの活用】 ⑨　Activity　紹介する人物を考える。 ⑩振り返り		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・子ども達一人一人の実態に合わせて、Jingle や Chant は全体で行うのではなく、個別学習として行う。		

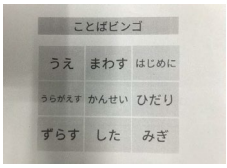
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立宮城小学校	授　業　者	香西　美紀子
対 象 学 年	第 2 学年	教　科　等	道徳
主　題　名 教　材　名	行ってみたいな　内容項目[C　国際理解、国際親善] 「ジェニーちゃんのおもてなし」（出典：「みんなのどうとく　2」学研）		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　　）　☐AppleTV ☐実物投影機　☑デジタル教科書（スクリーンショットをしてロイロに保存） ☐デジタルコンテンツ（　　）　☐その他（　　）		
本時のねらい	食べ物をはじめ、それぞれの国で大事にしていることとの関わり方について考え、他国の人々や文化に親しみ関わっていこうとする実践意欲を高める。		
ＩＣＴ機器の活用場面	(1)【導入】の①：世界の食べ物、フィリピンの海や市場の写真を提示する。 →学習課題への問題意識を高める。 (2)【展開】の③：漫画の一コマを提示する →焦点化することで登場人物の心情に迫る。 (3)【展開】の⑤：自分のしたい「おもてなし」を考え、その写真を調べ提出する →自分事として捉え実践する意欲につなげる。様々な考えを知り、考えを広げる。		
指導の流れ ①の様子 ③の様子 ⑤の様子 児童が調べたもの	**導入【世界の食べ物の写真を見る】（3 分）** **①世界の食べ物、フィリピンの海や市場の写真を見て、学習課題への問題意識を高める。** ICT **展開【「ジェニーちゃんのおもてなし」を読んで考え、話し合う】（35 分）** **②範読　「おもてなし」の意味を確認した後、教材の中にどんな「おもてなし」が出てくるのか視点を与えてから読む。** **③初めて見たおかしを食べる時、しんやくんはどんな気持ちだったのか考える。** ICT **（自分の考えをもとにペアで交流）** **≪ふあん≫・美味しいのかな　・口に合うかな** **≪たのしみ≫・早く食べたい　・どんな味か、わくわくするな** **※漫画の一コマで場面を焦点化し、発問する。** **不安な気持ちと楽しみな気持ちの両方をおさえる。** **○しんやの他国に触れた時の気持ちや他国との関わり方をさまざまな視点から考えていたか。（交流の発言）** **④中心発問「なぜ、しんやくんはジェニーちゃんともっと仲良くなれた気がしたのかな」** **・フィリピンのことを知ってくわしくなったから。・ジェニーちゃんの気持ちに近づいたから。** **問い返しの発問「もし、食べていなかったらもっと仲良くなれた気がしたかな」** **・しなかった。同じ物を美味しいと思ったから、ジェニーちゃんの気持ちに近づいた気がした。** **【教材の場面で、自分ならどうするかを考え、話しあう】** **⑤自分がジェニーちゃんを家に招待するとしたら、どんなおもてなしをしたいか考える。** ICT **・お寿司を一緒に食べたい。豚のお菓子をくれたから。** **・沖縄そばを一緒に食べたい。美味しさを知ってほしいから。** **○他国の人々や文化に親しみ関わることについて、自分自身と関わらせながら、考えを深めているか。（記述、発言）** **終末【世界の人と仲よくなるにはどうしたらよいのかを考え、納得解を持つ】（7 分）** **⑥振り返り　世界の人と仲良くなるためには、どうすればいいのか考える。** 	
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連 （小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編）	本指導内容は、他国の人々や多様な文化を理解すると共に、日本人としての自覚や国際理解と親善の心をもつことに関する内容項目である。 指導にあたっては、身近にある他国の文化に気付いたり、他国との交流に触れたりしながら、他国の人々に親しみを持ち、自分たちと異なる文化のよさに気付くことが大切である。そこで、この教材において自分たちと異なる文化を知ったことをきっかけに、さらに他国を知り、親しもうとする気持ちが高まるように ICT を活用し、「どのようなおもてなしをしたいか」を調べる活動を取り入れた。		

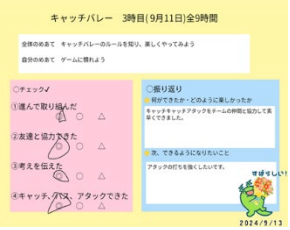
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	沢岻小学校	授　業　者	與那城　美南海
対 象 学 年	２学年	教　科　等	国語
単　元　名	カンジーはかせの大はつめい		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（ロイロノート）　□AppleTV □実物投影機　☑デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	漢字と漢字を合体させて、どんな漢字ができるかを考えよう。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・導入で漢字クイズを出題し、漢字を合体させる機械の仕組みについて、パワーポイントを用いて説明する。 ・自力解決の場面では、ロイロノートを活用して漢字クイズの作成に取り組む。		
指導の流れ	【導入】（７分） ①　問題把握 ○漢字クイズを出題し、漢字を合体させる機械の仕組みを理解する。  めあて かん字とかん字を合体させて、どんなかん字ができるかを考えよう。 【展開】（２８分） ②　自力解決 ○ロイロノートを活用して、漢字クイズを作成する。 ③　グループ交流 ○グループで漢字クイズを出し合う。 ④　全体共有 ○クラス全員で漢字クイズ大会を行う。  【終末】（１０分） ⑤　まとめ まとめ　かん字とかん字を合体させると、新しいかん字ができる。 ⑥　ふりかえり ○今日の学習で分かったこと、やってみたいこと等を書かせる。		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・指導上の留意点 漢字を合体した後のクイズと、漢字を合体する前のクイズの２種類のクイズに挑戦させるようにする。 ・学習指導要領 第２学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。(知(1)エ)		

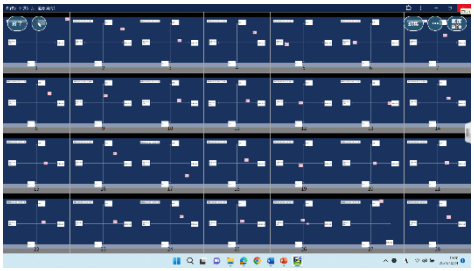
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	前田小学校	授　業　者	宮平　安彦
対 象 学 年	小学校１年	教　科　等	算数
単　元　名	かたちづくり		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）　☐AppleTV ☐実物投影機　☐デジタル教科書 ☐デジタルコンテンツ（　　）　☐その他（　　）		
本時のめあて	色板の並べ方を工夫して,影絵の形を構成することができる。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・電子黒板を使って、学び合いビンゴカードを説明する。 ・適応問題を終わった児童は、ロイロノートで写真を撮って、提出する。		
指導の流れ	１前時までの学習を振り返る。 ２問題を把握する。㋖の問題を考える。◢ を使って,⌂ がつくれるか考える。 全体で考える。 ３めあて　かげえにぴったりあう◢ のならべかたをかんがえよう。 ４㋖の問題を全体で考える。 ５自力解決 ・㋗の問題を考える。この影絵△ は◢ を何枚使えばつくれるかな？ ・影絵の形を構成する。学び合いビンゴカードで考える。  ６比較・検討 形のつくり方を発表し合い,影絵と同じ大きさで同じ形のものができていることを確かめあう。 ７まとめ　◢ のならべかたをくふうすれば,いろいろなかたちができる。 ８たしかめよう ㋘,㋙の問題を考える。影絵の形を構成する。ロイロノートで提出する。		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・事前に話型を指導し「学び合い」ができるように工夫する。 ・学び合いビンゴカードを使って「ずらす」「まわす」「うらがえす」等の算数言葉を使ってペアで学び合いができるようにする。 ・図形の操作で「ずらす」「まわす」「うらがえす」など,多様な方法について児童自ら気付くように指導する。本単元を通して児童が図形に対する興味・関心を高め,形について学ぶことの楽しさを感じるとともに図形に対する感覚を豊かなものにしていきたい。		

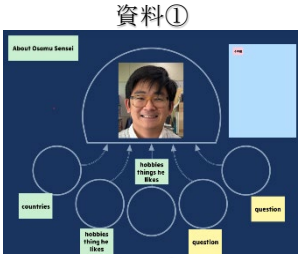
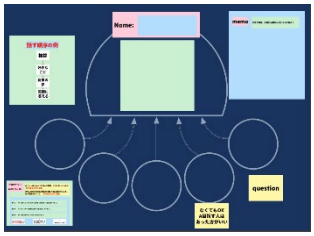
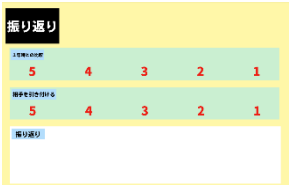
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	前田小学校	授　業　者	與那嶺　高道
対 象 学 年	第四学年	教　科　等	体育科
単　元　名	キャッチバレーボール「キャッチ！ジャンプ！アタック！」		
ＩＣＴ環境	□電子黒板　☑ iPad（ロイロノート）　□AppleTV □実物投影機　□デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	・全員が楽しめるように規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりしてすることができる。 ・動きのポイントやコツ、攻め方や守り方等考えたことを友達に伝えることができる。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・課題解決や振り返りの場面で、ＩＣＴ機器を活用し、思考を深めるための手立てとする。 ・フォームの確認をする場で、ＩＣＴ機器を活用し、動きのコツを見つける手立てとする。		
指導の流れ	1. 整列・挨拶・準備運動:　活動①②で行う技につながる基礎感覚運動を行う。 2. パワーアップタイム:技に合わせた場の設定を工夫する。 3. めあての確認:「キャッチバレーのルールを知り、楽しくやってみよう！」 4. 活動① ルールやキャッチの回数については、児童の実態に応じてかえて進める （ためしのゲーム） ・ゲーム　・作戦タイム◆ICT　・ゲーム  5. 活動②:ICT 機器を活用し、視覚的に動きを確認する （メインゲーム） ・ゲーム　・作戦タイム◆ICT　・ゲーム ●キラリタイムの活用 「どうして、ボールが前に飛ぶのだろう。」 「どうしたら、アタックがきれいに打てるのだろう」 6. ふり返り◆ICT		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	○ICT 機器を活用し、視覚的に動きを確認する ○全体の場で良い動きを共有し、どのような動きが良いかを考えさせる ○キラリタイムの活用 →課題解決がうまくいっている児童を例に、どのような動きや体の使い方が良いのかを考えさせる。		

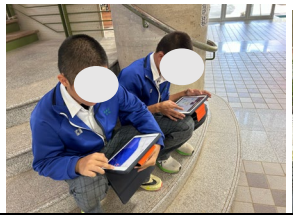
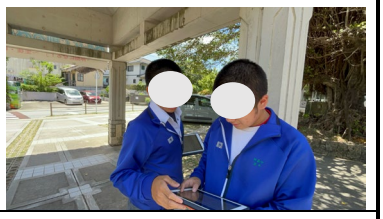
R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添中学校	授　業　者	髙岡信雄
対 象 学 年	中学 2 年生	教　科　等	道徳
単　元　名	内容項目:公正、公平、社会正義 主題名:いじめのない公正な態度 教材目:ヨシト		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（ロイロノート）　☑AppleTV ☐実物投影機　☑デジタル教科書 ☐デジタルコンテンツ（　　）　☐その他（　　）		
本時のめあて	集団の 1 人として『行動し発言する』することについて考えよう。		
ＩＣＴ機器の活用場面	○アイスブレイクの場面 ○発問に対する「思考の過程」を視覚化する場面→心の数直線、ポジショニング ○意見や考えを共有する場面→ロイロノートアンケート、提出 BOX		
指導の流れ	授業で使用した教材：https://loilonote.app/_/8986311/862747040 発問 1(中心発問)　ヨシトにどんな声かけ(やアドバイス)をしますか。 ロイロノートアンケート回答：学校楽しい？・一緒に空気が読めるように練習する・空気読めるようになってほしい・しない。（別に悪いことしていないから。）・空気を読んで見たら？と声をかける。・空気が読めてない発言をしたら、はっきり今の発言は良く無いと思うと伝える。・「少し周りの意見に耳を傾けた方がいいよ」とアドバイスする。・もしよしとが気づいたら「そんなの勝手にさせとけばいい。誰に何を言われても、世界中の誰もがよしとを嫌っているわけではいから。」って言ってあげる 補助発問(ヨシトへの肯定的・批判的・同調的な意見が出たため。)　ヨシトに責任はありますか？　心の数直線 →数値＝思考過程の視覚化 →数値の理由を発表 発問 2(深化発問)　あなたならヨシトとどうする？ ロイロノートシンキングツールを活用したポジショニング回答  各個人でポジショニングした位置 →本時の内容を自分事に捉え直した、いじめ場面やいじめに遭っている友への態度・関わり方 →なぜここの場所にポジショニングしたの？ 振り返り　・(様々な性格や特性を持つ)集団の 1 人として、どのように『行動し、発言』しようと感じましたか。・ヨシトとアツシは今後どうなると思いますか。理由もあわせて教えてください。→ロイロノート提出 BOX		
指導上の留意点	○ICT を活用して思考過程を視覚化させることで、視覚化した理由や考えを引き出す場面で活用することを意識した。 ○生徒個人個人で考えていること(多面的・多角的内見考え)を共有する場面で活用した。→指名して発表させることとどちらが効果的かを比較しながら活用した。		

R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立仲西中学校	授　業　者	普久原 朝英
対 象 学 年	中学２年	教　科　等	外国語　英語
単　元　名	新しい AET に自己紹介しよう！		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）　☑AppleTV □実物投影機　□デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	相手をひきつける自己紹介にチャレンジしよう		
ＩＣＴ機器の活用場面	①AET の自己紹介を聞いてメモする場面　②自分が自己紹介する場面　③自己紹介を ipad に録音し、改善する場面。④１年生の１学期に行った自己紹介のパフォーマンステストを振り返り、比較する場面。		
指導の流れ	○Greeting：新しい AET と簡単な挨拶をする。 ○Self-introduction：AET が自分のことを Power-Point を用いて自己紹介する。 その際、生徒は資料①に AET についてメモを取る。 ○資料①を見ながら、資料②を記入する。AET と自分の関連していることを探しながら、自分の自己紹介に工夫を凝らす。（15 分） ○指導①：言語活動の途中で指導を入れる。 これまでに学んだ表現を確認する。 指導②：まとまりのある文を書く際の注意点を確認する。 ○練習：資料②のシートに音声を何回か吹き込み、自己紹介の練習を行う。（10 分） ○発表：全員分の練習ができないため、吹き込んだ音声を提出箱に提出し、後日評価して返却する。発表できる生徒は発表を行う。 ○振り返り：１年生の１学期に行った自己紹介のパフォーマンステストの動画と今回の自己紹介を比較し、どのような点に成長を感じることができたか記入する。 資料①  資料②  振り返り  その他配布資料		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	指導上の留意点 ・自己紹介が単調になる傾向があるため、「自分にしかないこと」「自分の強み」「おもしろさ」を意識して自己紹介を行うように事前指導する。 ・言語活動のさせっぱなしにならないように、適宜指導を入れるようにする。 学習指導要領の関連 ・話すこと【発表】イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。		

R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立神森中学校	授　業　者	松本誉
対 象 学 年	3 年	教　科　等	国語
単　元　名	信頼性の高い情報を集めて、構成を工夫し、ショート動画で社会に思いを届けよう。		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（ロイロノート）　☑AppleTV □実物投影機　□デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	ショート動画を相互評価し、より良いスピーチについて考えよう		
ＩＣＴ機器の活用場面	前時までに iPad を利用してショート動画を撮影してくる。それをグループで鑑賞して相互評価を行った。その後、ロイロノートのプロット図を使って再構成し、再撮影を行った。一人一台あることで様々な場所で撮影をすることが出来た。		
指導の流れ	① 単元目標の確認を行う。 ② 前時までの学習の確認を行う。 表情が見えない問題 全く動かない ③ 相互評価会（グループ/3分×4人） ・時間を教師で設定し、2分以内の動画を流し、1分間は撮影時の工夫を語ったり、自由に感想を述べたりする時間を取る。 ・グループメンバーからの言葉を引用して気づいたことや修正点をまとめる。 ④プロットを再構成して再撮影の時間  		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	○話すことが苦手な生徒がいることを前提に、現時点での達成を発表させることで個別の生徒に応じた方向を示すように声掛けをしたい。 ○他者の考えのよさの自覚ができるように、友達の言葉を引用してまとめさせたい。何ができるようになったか成長の自覚化を図る。 ○「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例ア「提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動」を行う。		

R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立港川中学校	授　業　者	大城　司
対 象 学 年	3年	教　科　等	社会科　公民
単　元　名	第３章　現代の民主政治と社会　東京書籍:p106　みんなでチャレンジ 模擬裁判をやってみよう　特設:3 匹の子ぶた裁判「NHK　for　School」		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（ ロイロノート ）　☐AppleTV ☐実物投影機　☐デジタル教科書 ☑ジタルコンテンツ（ NHKforSchool ）　☐その他（　　）		
本時のめあて	裁判員となり有罪か無罪かを考える過程で、根拠を持って話し合い、公正・公平な判断を行う。		
ＩＣＴ機器の活用場面	場面１ ：「3 匹の子ぶた裁判」NHKforSchool 視聴（PP） 場面２ ： 争点の確認 ・第一個人判決(ロイロ①) 場面３ ： ロイロノート資料配布（ロイロ②） 場面４ ： グループ個人・討議（代表者がロイロノート③）無罪・有罪　有罪であれば刑量も考える 場面５ ： 最終判決（ロイロ④）		

指導の流れ

導入 3 分	★裁判員制度は日本特有　裁判員制度の特徴 有罪無罪:判断する　量刑:判断する　任期:事件ごと　選任:無作為 あなたが裁判員に選ばれる 本時のめあて FC ①「見たり聞いたりした事を裁かないといけない」 ②「推定無罪の原則」③「良心・法律のみに従う」	深入りはしない。 ※FC（フラッシュカード）
展開 40分	「3 匹の子ぶた裁判」視聴（15 分） ・争点の確認 ・第一個人判決(ロイロ) ・ロイロノート資料配布 発問　トン三郎が無罪・有罪となる証拠をあぶり出せ ・証拠検討表の整理（5 分） ・グループ個人・討議（8 分）（代表者がロイロノート 共有ノートへ記載） 無罪・有罪　※有罪であれば刑量も考える 各グループ全体発表（12 分） ・最終判決（ロイロ） 事件の争点 こぶたのトン三郎は、煙突から侵入してきたオオカミを、お湯が煮えたぎる大鍋の中にフタをして閉じ込め殺害した。突然襲ってきたオオカミから自分の命を守るためにやむを得ず殺したのなら、トン三郎は無罪。しかし、準備を重ねた上、計画的におびき寄せて殺害したのなら有罪だ。	気づき・個人 【評価】関心・意欲 思考の整理 ★【評価】思考・判断・表現 方法:ロイロワークシート 発表者 【評価】 主体個人 タブレット
まとめ 7分	トン三郎の行動は、〇〇の事から、〇〇が考えられるので、無罪・有罪である。 振り返り:裁判員に選ばれたら、どのような心がけで、どのように審判を行うか。	振り返りシート

・指導上の留意点
・学習指導要領の関連

指導上の留意点
・刑量を決定する場面を設定するかどうかは、発達段階において判断する事。
　この教材は、対象年齢が小学校～高校まで幅広いため、安易に刑量を決定することは、実際の裁判員制度の趣旨と乖離するため注意が必要と思われる。

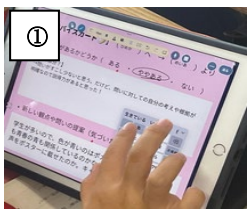
学習指導要領との関連
公民的分野の目標：「現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、‥平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎。

現代社会の見方・考え方の働かせ：課題解決の在り方をより公正に判断することが可能となる。
また、現代社会の見方・考え方を働かせることによって、政治・法・経済などに関する。

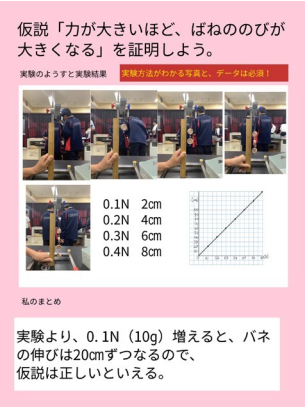
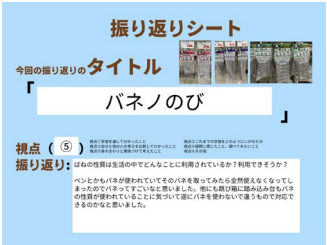
現代社会に見られる課題について公正に判断する‥‥力を養う
収集した資料の中から客観性のあるものを取捨選択しながら事実を捉え、いろいろな立場に立った様々な考え方があることを理解した上で判断する」。

・本時は中学校学習指導要領解説社会科編公民分野　目標の（2）「思考力,判断力,表現力等」をねらいとしている。

R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦添市立 浦西中学校	授　業　者	山里　昌平
対 象 学 年	３年	教　科　等	国語科
単　元　名	多角的に分析して書こう　―説得力のある批評文を書く		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（ ロイロノート ）　☑AppleTV □実物投影機　☑デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	交流を通して、題材の分析を深めよう		
ＩＣＴ機器の活用場面	場面１：前時までの学習の確認（ロイロ①、PP） 場面２：本時の活動の流れ・交流の仕方確認（デジタル教科書、PP） 場面３：アドバイスカード記入（ロイロ②） 場面４：分析カードの吟味及び再構成（ロイロ③） 場面５：ふりかえり（ロイロ④）		
指導の流れ	**１ 導入（ 5分 ）** 前時までの学習の確認 ・単元の GOAL の確認を行う。 ・前時の振り返りから本時の「めあて」と「問い」に繋げる。 めあて　交流を通して、題材の分析を深めよう 問い　広告に込められたメッセージとは？ **２ 展開（ 35 分 ）** ・本時の活動の流れ・交流の仕方を確認　①②・・グループ　　③・・個人 ① 題材と立てた観点＆問いに着目してグループメンバーの分析カードを読み合い、アドバイスカード記入。（10 分） ② 観点＆問いの吟味や提案（記入したアドバイスカードを伝え合う ＋ 「一緒に考える」）（4 分×人数）【評価】主体的に学習に取り組む態度（観察） ③ 交流したことを基に分析を深める（10 分）★【評価】思考・判断・表現（ロイロ）  **３ ふりかえり（ 10 分 ）** ① 交流を通して分析を深めたこと、気づいたこと ② 今日の授業にタイトルをつける／今日の授業で大切なこと／今日の授業の新たな問い		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	**指導上の留意点** ・説得力のある批評文の鍵となるのが、題材を多角的に捉える（分析する）過程であることをしっかりと気づかせ、理解させたうえで学習に向かわせる。 **学習指導要領の関連** ・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。［B 書く(1)イ］		

R6 浦添市 ICT エバンジェリスト活用実践事例様式

学　校　名	浦西中学校	授　業　者	森平　信義
対 象 学 年	中学校１学年	教　科　等	理科
単　元　名	３　身のまわりの現象　　３章　力の世界		
ＩＣＴ環境	☑電子黒板　☑iPad（　ロイロノート　）☑AppleTV □実物投影機　□デジタル教科書 □デジタルコンテンツ（　　）　□その他（　　）		
本時のめあて	仮説「力が大きいほどばねののびは大きくなる」を実験を通して証明しよう。		
ＩＣＴ機器の活用場面	・ロイロノートでの実験結果の記録、レポート作成。 ・数値を示し、規則性を確認するためのシンキングツールの選択。 ・ロイロノート提出箱共有を活用した意見交流。 ・単元を通して学びを蓄積する振り返りロイロカード。		
指導の流れ	導入(5 分)： １　事前課題より仮説を立てる。 ２　めあての確認：仮説「力が大きいほどばねののびは大きくなる」を実験を通して証明しよう。 ３　本時の問い　Q：どのような実験を行い、どのようにレポートするか。 展開(35分)：実験5　力の大きさとばねののびの関係 ①　班内で交流し実験とレポートのプランを立てる(5分) ②　実験を行い、結果・考察をレポートする(10分) ＊実験は各班で行う。まとめは個人でロイロに行う。ロイロ生徒間共有 ON。 ③　全体で共有する(10分)　＊ロイロ提出箱共有。発表。 教師の視点 □「ばねののび」とはどの部分か。 □おもりの個数で表現するべきか。 Ｎで表現するべきか。 □より説得力を増す表現はないか。 □規則性はないか。弾性限界より先の部分を推測できないか。 ④　共有したことをもとに、再実験やレポートの手直しを行う(10分)  まとめ(5 分)　実験結果より、力の大きさとばねののびは比例する。 振り返り、事前課題の確認(5 分) ①　振り返り：ばねの性質は生活の中でどのようなことに利用されているか。利用できそうか。 ②　事前課題：教科書 P179グラフのかき方を確認。  		
・指導上の留意点 ・学習指導要領の関連	・実験の注意として、ばねはのばしすぎないこと（弾性限界）についてと、おもり１個　１０ｇ　＝　０．１Ｎとして計算することを確認する。 ・板書にて、評価　B〔思考・判断・表現〕「実験結果の数値を示して仮説を証明している。」について記述・観察から見取ることを確認する。		